

## ○全体景況（弱めの動きが広がっているものの、緩やかに改善している）

・生産は、海外経済減速の影響等により、電子部品・デバイスがスマートフォン等で一部底入れ感もみられるものの本格的な需要回復には未だ至らず、また、輸送機械や生産用機械が弱含みとなっている。設備投資は、生産能力増強や人材不足解消のための省人化投資等で増加傾向が継続。雇用は、有効求人倍率が高水準で推移。個人消費は、高額品の動きが鈍かったほか、自然災害や暖冬の影響等により、一部に弱い動きがみられる。

## ○生産

・生産用機械：工作機械の受注減少等で、関東、東海、北陸、近畿、中国で弱含み。

・電子部品・デバイス：一部底入れ感もみられるものの、東北、関東、北陸、中国、四国で弱い動き。

・輸送機械：一部堅調さを維持しつつも、海外経済減速の影響等により、東北、関東、東海、中国で弱含み。

## ○設備投資

・製造業：生産能力増強や設備の更新投資に加え、人手不足を補うための省人化投資などで増加傾向が継続。

・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗改装に加え、人手不足へ対応するための省人化投資やキャッシュレス対応を含めたシステム投資への動き。

## 令和元年10-12月期地域経済産業調査～全体総括(2/2)～

### ○雇用情勢

- ・製造業：一部の生産現場で充足感もみられるが、資格や技術を有する人材の不足が顕著で、人材の確保が困難。労働条件の改善、多様な人材の活用の他、業務の効率化の動き。
- ・非製造業：小売業、サービス業を中心に様々な業種で人員が不足。採用手法の多様化や、高齢者や外国人など多様な人材の活用がみられるほか、福利厚生の実施等による人材確保や業務効率化の動き。

### ○個人消費

- ・百貨店・スーパー：高額品の動きが鈍かったほか、自然災害や暖冬の影響等により衣料品が低調。
- ・コンビニエンスストア：カウンター商材等は引き続き堅調。ポイント還元効果による動きもみられた。
- ・ドラッグストア：新店効果に加え、食料品が好調で、引き続き堅調。
- ・家電大型専門店：パソコンに買い替え需要がみられたものの、エアコン等白物家電が低調。
- ・新車販売：軽自動車や普通車で弱い動き。
- ・観光：自然災害の影響や日韓関係によるインバウンドの減少等はみられるものの、概ね堅調。

# 10-12月期企業の声

	企業の主な声
生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア各国の経済状況や政策の影響等により生産を落としている。(輸送機械／関東)</li> <li>・車載向けは減少傾向だが、スマートフォンは5G基地局関連需要が動きだしている。(電子部品・デバイス／東北)</li> <li>・金属工作機械が国内、海外向けともに弱い動き。(生産用機械／東海)</li> <li>・中国国内の設備投資控えにより、産業機械や工作機械の需要がほとんどない。(鉄鋼／近畿)</li> </ul>
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽設備の更新がメインで、その他、合理化の推進、安全、環境対策の投資を実施。(鉄鋼／北海道)</li> <li>・新工場の建設に加え、新規受託が決まったため、当初計画に追加で設備を導入。(化学／北陸)</li> <li>・消費増税や人手不足対応のためのレジ等のシステム投資。(スーパー／四国)</li> <li>・新規出店、店舗改装、リフォーム売場の拡張改装を主に実施。(家電量販店／九州)</li> </ul>
雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術者を中心に人員不足。(輸送機械／中国)</li> <li>・働き方改革として業務の棚卸しを進め、「なくても困らないもの」については見直しを実施。(窯業・土石／九州)</li> <li>・IT人材が足りない。(サービス／沖縄)</li> <li>・外国人材は通年で積極的に雇用。(宿泊／近畿)</li> </ul>
消費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風と暖冬の影響で衣料品が低調、高額品も前年割れ。(百貨店／東海)</li> <li>・ポイント還元事業の効果で客単価が上昇。(コンビニ／関東)</li> <li>・気温高でエアコンが不振。パソコンは買い替え需要あり。(家電量販店／四国)</li> <li>・中国からの観光客は増加しているが、日韓関係の影響により韓国人観光客が大きく減少。(観光／北海道)</li> </ul>

# 北海道

<p>全体景況</p>	<p><b>&lt;一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている&gt;</b>          生産は、食料品が記録的な不漁の影響で減少したこと等により、弱い動き。個人消費は持ち直しの動きがみられるものの、需要の前倒しの影響や降雪が少なかったこと等により、一進一退。観光は日韓関係の影響によるインバウンドの減少により、一部に弱い動き。</p>
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p><b>○生産は弱い動きとなっている</b>          ✓ 食料品は、記録的な不漁により水産加工品などの生産が、鉄鋼は、米中貿易摩擦の影響で、自動車向けの製品などの生産がそれぞれ減少するなど、弱い動き。          ✓ パルプ・紙・紙加工品で、米中貿易摩擦の影響により輸出用包装紙などの需要が減少しているとの声がある。</p> <p><b>○設備投資は増加している</b>          ✓ 製造業は、北海道胆振東部地震の影響などから、設備投資が今年度にずれ込んだ企業があり、大幅に増加した。          ✓ 非製造業は、前年度に幅広い業種で、比較的大きな設備投資があったことの反動で、増加が小幅になった。</p> <p><b>○雇用情勢は改善している</b>          ✓ 有効求人倍率は、長期にわたり改善。一方、建設業、製造業、サービス業の現場などで人手不足の状況が続いている。</p> <p><b>○個人消費は一進一退となっている</b>          ✓ 百貨店は、衣料品や化粧品などが振るわなかったことに加え、一部店舗の閉店の影響が出ている。          ✓ スーパーは、日用品や酒類などに、ドラッグストアは、日用品や化粧品などで前期に需要が前倒しになった影響が出ているものの、持ち直しの動きがみられる。          ✓ コンビニエンスストアは、前年のたばこ増税後の売上げ落ち込みの反動増などがみられる。          ✓ 家電販売は、冷蔵庫などで前期に需要が前倒しになった影響が出ている。          ✓ ホームセンターは、降雪が少なかったことから、除雪用品の動きが鈍かった。新車販売は低調。          ✓ 観光は、国内客は横ばい状況。インバウンドは日韓関係の影響で韓国客が落ち込んでいるものの、中国客などが増加している。          ✓ 小売業などで、増税後に節約志向が一層強くなったとの声が聞かれる。</p>

関連指標	鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	92.1(93.0)	1.27(1.23)	▲2.2%(0.1%)	1.7%(2.9%)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

# 東北

<p>全体景況</p>	<p><b>&lt;足踏み状態となっている&gt;</b>          生産は、生産用機械が底堅いものの、電子部品・デバイス、輸送機械が弱含み、全体としてはこのところ弱含みとなっている。個人消費は、自然災害の影響等により売上が振るわず、足踏み状態となっている。</p>			
<p>個別の動向  <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p><b>○生産はこのところ弱含みとなっている</b>          ✓ 電子部品・デバイスは、中国をはじめとする海外市場が低調となっていることから弱含みとなっている。          ✓ 輸送機械は、海外需要の減少や台風19号の影響により弱含みとなっている。          ✓ 生産用機械は、中国向け受注は鈍化が続いているが、国内、北米、欧州、東南アジア向け需要は引き続き堅調。</p> <p><b>○設備投資は横ばいとなっている</b>          ✓ 2019年度の設備投資計画については、「変更なし」としている企業が多い。前期時点と比べ、製造業ではほぼ動きがないものの、非製造業で「減額」とする企業が若干増加した。          ✓ 製造業では、スマートフォン向け部品需要増加に伴う設備投資の動き、非製造業では、台風の影響で浸水被害にあった店舗の復旧を優先し、既存店舗の改装を一部先送りした企業もみられた。</p> <p><b>○雇用情勢は改善している</b>          ✓ 雇用者の過不足判断では、「不足」とした企業が前期から減少し約4割。給与・賞与等の処遇改善を実施、予定及び検討の事業者が前期から増加し約9割となっている。          ✓ 人手不足に関する主な声としては、定年退職等による人員減少、応募者の減少、若年層や資格者の人員不足など。</p> <p><b>○個人消費は足踏み状態となっている</b>          ✓ 百貨店は、衣料品や高額品等が低調となっている。          ✓ スーパーとコンビニエンスストアは、来店客数が減少している。          ✓ 家電販売は、PCが堅調も冷蔵庫・洗濯機等の大型家電が振るわない。          ✓ ドラッグストアは、新規出店と販促効果により売上が増加している。          ✓ 新車販売は、購買意欲に大きな変化がみられず足踏み状態となっている。          ✓ 当期は自然災害の影響等により売上が振るわず、足踏み状態となっている。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数  <small>(H27=100)          ※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">100.4(97.6)</p>	<p>有効求人倍率  <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">1.44(1.45)</p>	<p>百貨店・スーパー          販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">▲0.8%(0.8%)</p>	<p>コンビニエンスストア          販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">1.6%(2.4%)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

# 関東

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している〉</p> <p>生産はアジア諸国の景気減速の影響等から輸送機械を中心に弱含みで推移。雇用情勢は改善する一方、人手不足が継続。個人消費は消費増税の影響や「キャッシュレス・消費者還元事業」の影響も含め、業態間の差異を伴いつつも一進一退。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は弱含みで推移</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 半導体製造装置、電子部品・デバイスは、5Gサービス向けやデータセンター向けに先行きを期待する声があるものの、半導体等が依然として在庫調整局面にあり、本格的な需要回復には至っていない。</li> <li>✓ 輸送機械は、一部に国内及び米国で人気車種を中心に堅調さを維持しつつも、インドなどアジア新興国の景気減速の影響を受ける状況が続いている。</li> <li>✓ 工作機械関連は、自動車業界を中心とした国内外での投資縮小により、引き続き生産に影響が出ている。</li> </ul> <p>○設備投資は前年度を上回る見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製造業では、生産ラインの増強及び省人化・省力化等を目的とした設備投資増がみられた。引き続き、老朽化・メンテナンス対応のための設備投資は多い印象。なお、一部の輸送機械には、消極的な計画変更がみられた。</li> <li>✓ 非製造業では、引き続き、省人化に向けた設備投資が多い印象。</li> </ul> <p>○雇用情勢は改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製造業・非製造業ともに、一部では改善の兆しがみられるものの、引き続き人手不足。外国人労働者や派遣労働者で補完している状況。また、引き続き、技術系人材の人材不足感が強い。</li> <li>✓ 他方で、働き方改革は着実に浸透しており、残業抑制による残業時間の減少、テレワーク等の新しい働き方などが浸透しつつある。複数の中小企業においても、働き方改革に係る取組がみられた。</li> </ul> <p>○個人消費は一進一退となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 百貨店・衣料品店は、消費増税の反動減、天候要因、台風の影響等で厳しい状況。</li> <li>✓ スーパーは、消費増税の反動減等の影響が限定的であったほか、台風19号等の接近による特需が生じた。一方では、「キャッシュレス・消費者還元事業」による利益圧迫、顧客流出等の影響もみられた。</li> <li>✓ コンビニエンスストアは、キャッシュレス・消費者還元事業が功を奏して堅調に推移。</li> <li>✓ 家電販売は、消費増税の反動減や台風19号等の影響による業況の悪化がみられた。なお、消費増税の影響については収束しつつあるとの見方であった。</li> </ul>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">94.9(98.1)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">1.56(1.60)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">▲1.8%(1.2%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">2.2%(2.5%)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

## 中部(東海)

<p>全体景況</p>	<p>〈改善しているものの、足踏みがみられる〉          生産は、電子部品・デバイスが持ち直しの動き。主力の輸送機械が弱含み。          個人消費は、コンビニエンスストア、ドラッグストアが堅調であり、緩やかに持ち直し。</p>			
<p>個別の動向  <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は弱含みとなっている          ✓ 主力の輸送機械は、国内向け、海外向けともに弱含み。          ✓ 電子部品・デバイスは、持ち直しの動き。          ✓ 金属工作機械は、国内向け、海外向けがともに弱い動きとなっていることから、全体でも弱い動き。</p> <p>○設備投資は増加している          ✓ 製造業では、合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品やファインセラミックスは新製品対応や生産能力増強の動き。大企業を中心に、投資意欲が高い。          ✓ 非製造業では、ドラッグストア、スーパー、コンビニエンスストアで新規出店や改装の動き。          ✓ 製造業、非製造業ともに、人手不足を背景とした省人化投資への動き。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる          ✓ 製造業では、大企業は不足感が緩和しているものの、中小企業は不足感が継続。非製造業では、百貨店、スーパー、コンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続しており、募集をしても人が集まりにくい状況。</p> <p>○個人消費は緩やかに持ち直している          ✓ 百貨店は、高額品が前年割れ。台風と暖冬の影響で衣料品が低調。          ✓ スーパーは、食料品が総じて堅調。          ✓ コンビニエンスストアは、カウンター商材が好調。          ✓ 家電販売は、生活家電が低調。          ✓ ドラッグストアは、新規出店効果に加え、食品が好調。          ✓ 小売業の各業態間における競争が激化。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数  <small>(H27=100)          ※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">99.0(108.0)</p>	<p>有効求人倍率  <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">1.82(1.90)</p>	<p>百貨店・スーパー          販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">▲0.4%(0.5%)</p>	<p>コンビニエンスストア          販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">1.9%(0.3%)</p>

※指標は11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

## 中部(北陸)

全体景況	<p><b>〈足踏み状態となっている〉</b></p> <p>生産は、化学が高水準で推移しているものの、電子部品・デバイスや生産用機械などで弱い動きがみられる。個人消費は、スーパー、ドラッグストアで新店効果から堅調な動きがみられるものの、全体としては足踏み状態となっている。</p>			
個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)	<p><b>○生産は弱含みとなっている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けが減少、自動車向けの伸びが鈍化し、弱い動きとなっている。</li> <li>✓ 化学は、ジェネリック医薬品や受託製造品を中心に高水準で推移している。</li> <li>✓ 生産用機械は、半導体製造装置などに動きがみられるものの、繊維機械や海外向け建設機械などが減少しており、弱い動きとなっている。</li> <li>✓ 電子部品・デバイス、生産用機械及び繊維の一部では、受注が減少するなど、中国経済の減速や米中貿易摩擦による影響がみられる。</li> </ul> <p><b>○設備投資は高水準で横ばいとなっている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製造業では、大型投資は一巡したものの、引き続き生産能力増強に加え、生産性向上投資が積極的に行われている。</li> <li>✓ 非製造業では、新規出店や店舗改装に加え、人手不足に対応した省力化投資が行われている。</li> </ul> <p><b>○雇用情勢は改善しており、労働需給の引き締まりがみられる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製造業では、生産現場の一部で充足感もみられるが、人手不足が継続。専門性の高い技術者に不足感が強い。</li> <li>✓ 非製造業では、人手不足が慢性化している。高齢者・外国人など多様な人材の活用等による対応や、福利厚生の実等により従業員の満足度向上に取り組む企業がある。</li> </ul> <p><b>○個人消費は足踏み状態となっている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 百貨店は、北陸新幹線の運休影響などで客数が減少し、前倒し購入の反動などから、全体的に鈍い動きとなっている。</li> <li>✓ スーパーは、新規出店効果などにより、売上げは堅調に推移している。</li> <li>✓ ドラッグストアは、新規出店効果や食料品の品ぞろえ強化などにより集客力が高まり、堅調に推移している。</li> <li>✓ 家電販売は、前期に大きな動きがあった反動で、全体的に減少した。</li> <li>✓ 新車販売は、大きな落ち込みがみられた。</li> </ul>			
関連指標	鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	92.3(95.9)	1.89(1.95)	▲2.2%(3.0%)	0.8%(0.9%)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。



# 近畿

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している〉          生産は、このところ弱含んでいる。個人消費は、全般に消費増税の影響が顕著で、インバウンドは好調を維持しつつも勢いが軟化しており、改善の動きに足踏み。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産はこのところ弱含みとなっている          ✓ 工作機械、産業機械等の生産用機械及び汎用・業務用機械は弱含んでいる。          ✓ 電気・情報通信機械及び輸送機械は足踏みをしている。          ✓ 中国経済の減速をはじめとする海外情勢による受注の減少等に加え、台風の影響が幅広い業種で聞かれるなど、総じて、生産はこのところ弱含んでいる。</p> <p>○設備投資は増加している          ✓ 一部において下方修正の動きがみられるものの、製造業では、設備の維持・更新や生産能力の増強及び省力化を中心に、多くの企業で昨年度並みか昨年度以上の設備投資を見込んでいる。          ✓ 非製造業では、小売業においてキャッシュレス対応の投資がみられた。</p> <p>○雇用情勢は改善しており、労働需給の引き締まりがみられる          ✓ 製造業では、技術者を中心に人手不足が続いているものの、一部では緩和がみられる。小売業やサービス業などでは、パート・アルバイトの確保が困難な状況が続いている。          ✓ 人手不足の対策として、雇用環境の改善や省力化を推進するとともに、外国人や高齢者など多様な人材の活用がみられる。          ✓ また、採用は新規・中途ともに人材の獲得競争が厳しい状況が続いている。</p> <p>○個人消費は改善の動きに足踏みがみられる          ✓ 百貨店は、高額品を中心に反動減があり、加えて気温高により冬物衣料が不調。          ✓ スーパーは、軽減税率対象の食料品が微減にとどまるも、日用品等に回復がみられない。          ✓ 家電販売は、好調に推移してきた白物家電が駆け込み需要の大幅反動減で、テレビやパソコンに回復への期待感が強い。          ✓ 新車販売は、普通車等への税制改正効果も目立たず厳しい落ち込み。          ✓ インバウンド消費は、中国に依存している状態が変わらない中、勢いが軟化したとみる声が多い。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">93.8(100.3)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">1.58(1.61)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">▲3.3%(0.8%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">3.3%(2.2%)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

# 中国

<p>全体景況</p>	<p>〈持ち直しの動きに足踏み感がみられる〉 生産は鉄鋼や自動車、電子部品・デバイスの一部に需要減がみられ、このところ弱含みとなっている。個人消費は気温が高めに推移したことから、季節商品の動きが低調となっているなど、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産はこのところ弱含みとなっている            ✓ 鉄鋼は、海外市況の影響及び需給状況に応じた調整により、生産減。            ✓ 化学は、一部品目の需給状況に応じた調整により、生産減。            ✓ 自動車は、国内・海外向け車両が減少したため、生産減。            ✓ 汎用・生産用・業務用機械は、製品ごとに差があるが、生産減の傾向。            ✓ 電子部品・デバイスは、海外市場の影響により生産が伸び悩んでいる。</p> <p>○設備投資は持ち直している            ✓ 製造業では、引き続き、受注増加や新商品対応のための生産設備、省力化設備の導入等が進められているが、一部では計画の見直しが行われている。            ✓ 非製造業では、引き続き、新規出店や店舗改装、既存設備の維持更新が進められているほか、消費増税対応のための設備の導入も進められた。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる            ✓ 製造業では技術系職員、非製造業では販売員などを中心に人員不足が続いている。            ✓ 一方、製造業の一部では期間従業員の人員調整が行われたところもあった。</p> <p>○個人消費は持ち直しの動きに足踏み感がみられる            ✓ 百貨店では、高額品の動きが悪かったほか、前年に比べて気温が高かったことから、冬物衣料が低調。            ✓ スーパーでは、惣菜の動きはよかったものの、高価格帯の寝具や、前年に比べて気温が高かったことから、冬物衣料などが低調。            ✓ ホームセンターでは、前年に比べて気温が高かったことから、冬物インテリア用品など季節商品全般が低調。            ✓ 家電販売では、買い替え需要や販促効果によりパソコンは好調だったものの全般的に低調。            ✓ ドラッグストアでは、紙製品や洗剤類などが低調だったものの、マスクや食料品が好調。            ✓ 新車販売は、10、11月ともに低調で前年を下回った。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p>
	<p>98.0(96.5)</p>	<p>1.85(1.88)</p>	<p>▲1.6%(0.9%)</p>	<p>2.0%(0.3%)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

## 四国

全体景況	<p><b>〈持ち直しの動きに足踏み感がみられる〉</b>          生産は、電気機械等で一部に弱い動きがみられるなど弱含みで推移。個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しの動き。</p>			
個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)	<p><b>○生産は弱含みで推移</b>          ✓ 輸送機械は、船価は低下傾向であるが、建造量は高水準で推移。          ✓ 窯業・土石製品は、都市部の再開発需要などが堅調で、おおむね横ばいで推移。          ✓ 電気機械は、海外需要の一部に弱い動きがみられる。          ✓ 鉄鋼は、米中貿易摩擦などを背景に需要が低迷しており、一部に弱い動きがみられる。</p> <p><b>○設備投資は持ち直しの動き</b>          ✓ 製造業では、パルプ・紙・紙加工品、電気機械などを中心に増産・新規受注対応といった投資計画がみられる。          ✓ 非製造業においても、小売業で店舗の新設や改装などの計画のほか、人手不足に対応した合理化・省力化などの計画などもみられる。</p> <p><b>○雇用情勢は改善している</b>          ✓ 有資格者、開発担当要員、現場要員などの必要な人材が確保できない状態は続いている。          ✓ 引き続き、地道な採用活動、派遣社員、外国人の活用など人材確保のための努力が続けられており、合理化・省力化投資、生産量の平準化、一部工程のアウトソーシングなどの動きもみられる。</p> <p><b>○個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しの動き</b>          ✓ 気温が高く冬物衣料の動きが鈍かったことなどから百貨店はやや弱い動き。スーパーは総菜などが堅調に推移し持ち直しの動き。コンビニはポイント還元効果に加え、冷凍食品などの好調により堅調に推移。          ✓ 家電販売は、パソコンに買い換え需要がみられるものの、気温が高くエアコンの動きが鈍いなど一部に弱い動き。          ✓ 新車販売は、新型車は好調に推移したものの、軽乗用車、普通車などの一部に弱い動き。          ✓ 観光は、台風の影響がみられたものの、インバウンドは増加傾向が続いている。</p>			
関連指標	鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	97.0(95.4)	1.55(1.57)	▲1.1%(1.1%)	1.5%(▲0.1%)

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

# 九州

<p>全体景況</p>	<p><b>〈横ばいとなっている〉</b>          生産は、自動車が新型車効果等により堅調に推移する他、半導体製造装置が回復傾向。一方で、汎用・生産用・業務用機械等の一部では引き続き弱い動き。個人消費は、天候要因等で苦戦しつつも、全体としては一進一退。</p>			
<p>個別の動向  <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p><b>○生産は横ばい傾向</b>          ✓ 輸送機械は、自動車が新型車効果や世界的なSUV人気、国内人気車種の生産開始等を背景に堅調に推移。          ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向け半導体が引き続き堅調に推移するとともに、前期に見られた弱い動きは落ち着きつつある。          ✓ 汎用・生産用・業務用機械は、中国向け等で弱い動きがみられるものの、半導体製造装置は回復傾向。          ✓ 素材関連は、鉄鋼は、間接輸出向け国内需要が減少、化学は自動車関連が比較的好調。</p> <p><b>○設備投資は増加している</b>          ✓ 製造業では、設備の維持更新、設備能力増強の他、新規生産車種の生産や今後需要が見込まれる分野・製品への投資の動きがみられた。また、外国人実習生受入れや労働環境改善に向けた投資の動きもみられた。          ✓ 非製造業では、設備の維持更新、新店や店舗改装の他、2020年4月の同一労働同一賃金施行に向けたシステム改修等の動きがみられたほか、都市部の大規模な不動産開発の動き等もみられた。</p> <p><b>○雇用情勢は改善している</b>          ✓ 雇用者数の適正化に向け、採用活動の他、定着率向上に向けた取組が続く一方で、非正規社員の直接雇用化の動きがみられた。また、残業管理・削減、有休取得のための環境整備、給与制度改革や業務の棚卸しの動きもみられた。</p> <p><b>○個人消費は一進一退となっている</b>          ✓ 百貨店・スーパーは、前年と比べ気温が高い等の天候要因により、冬物衣料等季節性商品の販売が苦戦。          ✓ 家電販売は、白物家電は売上が低下する一方、テレビ等の黒物家電は買い換え需要がみられた。          ✓ 観光は、ラグビーワールドカップの効果がみられた一方、一部地域では韓国人入国者数の減少の影響等で売上減少。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数  <small>(H27=100)  <small>※季節調整値</small></small></p>	<p>有効求人倍率  <small>※季節調整値</small></p>	<p>百貨店・スーパー          販売額(前年同月比)</p>	<p>コンビニエンスストア          販売額(前年同月比)</p>
	<p>105.2(105.2)</p>	<p>1.43(1.47)</p>	<p>▲3.2%(▲0.3%)</p>	<p>2.7%(1.0%)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。

# 沖縄

<p>全体景況</p>	<p><b>〈改善が続いている〉</b>                  雇用情勢は有効求人倍率が安定的に推移し、改善が続いている。個人消費は百貨店・スーパー、ドラッグストアが堅調であり、改善が続いている。</p>			
<p>個別の動向                  (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばいとなっている                  ✓ 鉱工業生産指数は管内の主要な製造業である食料品工業等も含め、全体としては横ばい。                  ✓ ヒアリング結果からは、短期・長期の見通しは「変化なし」が最も多かった。</p> <p>○設備投資は持ち直している                  ✓ 製造業及び非製造業の2019年度の設備投資計画が前年度比で増加した。</p> <p>○雇用情勢は改善が続いている                  ✓ 有効求人倍率は、全国と比べ差があるものの、前期に引き続き1.2倍前後で推移しており安定的に推移している。                  ✓ ヒアリング結果からは、前期より多い、8割以上の事業者が人手が不足していると回答。働き方改革への対応として残業減の指導及び有給休暇の積極的取得に取り組んでいるとの声があった。</p> <p>○個人消費は改善が続いている                  ✓ ドラッグストアの販売額は直近の動向で前年度比を上回り、堅調に推移している。また百貨店・スーパーの販売額は前年度比で10月に減少した後、11月に増加した。一方で家電大型専門店の販売額が10月及び11月に前年度比で減少するなど一部に弱含みの動きがみられる。                  ✓ ヒアリングの結果、コンビニからはキャッシュレス決済の割合が増加したとの声があった。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数                  (H27=100)                  ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">85.6(91.7)</p>	<p>有効求人倍率                  ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">1.21(1.21)</p>	<p>百貨店・スーパー                  販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">1.0%(2.6%)</p>	<p>コンビニエンスストア                  販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">2.7%(1.0%)</p>

※指標はすべて11月の数値、括弧内は8月の数値(鉱工業生産指数は10月、括弧内は7月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。